

平成 29 年度 復興と未来を担うグローバルリーダー育成推進事業
東北大学研修
第 1 学年

平成 29 年 7 月 22 日（土）、東北大学川内北キャンパスにおいて、本校東北大学研修が実施されました。第 1 学年の研修スケジュールは以下の通りです。

10:10～10:20	東北大学紹介
10:20～12:00	全体講義
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	分科会講義



まず、本校が教育連携協定を結んでいる高度教養教育・学生支援機構長の花輪公雄教授より大学紹介のお話をいただきました。東北大学の特色、入試状況、歴史等について詳しく説明していただいたことで、生徒達は実際に大学という場を体験しながら、東北大学はもちろん、大学全般に関する理解を深めました。



続く全体講義では、グローバルラーニングセンター副センター長の末松和子教授に「国際社会に羽ばたこう！グローバル人材に必要な知識・スキル・資質とは」と題してご講義いただきました。

末松先生は、グローバルリーダーに必要とされる外国語能力、多様性・異文化理解能力、行動力、そしてコミュニケーション能力について教えてくださいました。さらに様々なアクティビティを通して、生徒達はグローバルリーダーとは何かについて実践的に考えました。

【生徒感想】

グローバル化している社会において、就職でも留学経験のある人を採用する企業が 30%と英語が重視されていることが分かった。英語は苦手なので、克服できるように勉強を頑張りたいと思った。外国語能力、異文化理解、対応力、行動力、コミュニケーション力を向上して、複雑な社会において対応できる人材、「グローバルな人材」となれるよう、今回学んだことを今後の生活に活かしていきたいと思う。

校内の講演会に参加し話を聞いても、まだ少しグローバルリーダーという自分には関係ないという考えがありました。しかし、情報通信手段の進歩や、テロ、災害の多発に伴って複雑化する社会の中で、既存知識だけでは生きていけず、広い視野を持つことが大切なのだと思います。東北大の目指すグローバルリーダーの要素は、コミュニケーション能力、リーダーシップ等色々ありましたが、スクリーンに必ず表示されていたのは、その元となる基礎知識です。大学で何をするか、何を学ぶかを考えると同時に、今は基礎知識をきちんと身に付けて、学習に励みたいと思います。

第1学年分科会

全体講義終了後、生徒達は川内北キャンパスの学生食堂を利用するなどして昼食をとり、午後からの分科会講義に臨みました。

今年度は14の分科会を設け、生徒達はあらかじめ選択した分野の講義を受けました。世界最先端の教育・研究が行われている東北大学で、それぞれの関心のある分野の講義を経験するという、大変貴重な機会となりました。

文学部 永井 彰 教授 「『過疎地域』をもとに地域の未来を考える」



生徒感想

講義の内容は、過疎地域にピントを当てて地域社会の未来について考えるというものだったが、私の住む地域とも似た点や当てはまる点が多く、人ごとではない気持ちで聞いていた。また、過疎地域の問題や解決の取り組みはもちろん、その取り組みに対する第三者視点からの指摘などもあり、とても深く問題について考えることができた。

教育学部 谷口 和也 准教授 「グローバル人材のパスポートを手に入れる ―多文化共生社会の教育の役割―



生徒感想

グローバル人材って何か、また備えるべき資質は何かという話し合いでは、みんなコミュニケーション能力が必要だと思っていたことは共通だった。だがグローバル人材の考えは多様であるということを知った。多様な考えがある中、多文化間の共感や協力が特に重要だとわかった。また、東北大学教育学部のよさを知ることができた。

教育学部 李 仁子 准教授 「ボランティアを考える」



生徒感想

今回の授業では、地域のボランティアについてたくさん考えることができた。先生が実際に地域の古くから伝わるお祭りのボランティアをしたときの写真などを見て、人々との交流の大切さを感じた。また、家族や周りの人を大切に思うことや、自分から文化を知ることの楽しさを学ぶことができた。

法学部 水野 紀子 教授 「子どもを育む家族と法」



生徒感想

法学とは言葉の学問であり、観念の学問であることを知ることができた。法がなぜ必要なのかは、ある事象が生じたときに、どのように振る舞うべきかを示すためだと理解した。今まで法がこんなに身近にあるとは思ってなかったので、今回の講義は新鮮だった。自分が普通に成長しているのは家族のおかげであり、その家族があるのも法と社会の存在があるからだと思うことができた。

経済学部 西出 優子 准教授 「社会問題を解決するには？NPOの役割を考えよう」



生徒感想

本当のところ、NPOとかNGOとかそこまで重要じゃないだろうとこの研修を受ける前は思っていた。しかし、それは間違いだったと思う。これらの組織が自主的な活動を行っているからこそ僕たちは快適に暮らせているし、災害の時も助けてもらえる。いつかこの研修を思い出して、活動に参加してみたい。

理学部 須賀 利雄 教授 「世界の海をはかるー海と気候変動」



生徒感想

地球温暖化が進んでいる現在、大気の大気のためこみが一番大きいと思っていたが、実際には低く、海洋の大気をため込んでいることを初めて知った。地球温暖化は、海の温暖化なのだとはよくわかった。また、Argoなどでこれから先の将来を知るためには、世界で国家間の協力が不可欠であるため、もっと国際協力をつなげていければいいと思った。

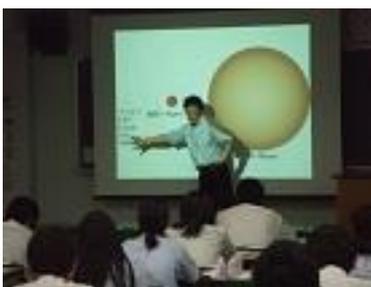
理学部 服部 誠 准教授 「偏光観測で宇宙誕生の様子を調べる」



生徒感想

とてもたくさん学べた。偏光の実験はとても楽しかった。セロハンできれいなステンドグラスのような色が出せるなんてびっくりした。専門的で、難しいところはたくさんあったけれど、とてもいい時間を過ごせた。偏光板は興味があるので、これからも大切にとっておく。

医学部 押谷 仁 教授 「グローバル化と感染症のリスク」



生徒感想

教授の、感染症の発生したところに行った実際の話の話を聞いたり、実際の医学部の講義の様子が聞けたりしたので、とても充実していた。ぼんやりしていた大学生活が、少しはっきりしてきた気がした。

自分の中にあつた「医師」というイメージが崩れて、様々な新しい発見ができた。地域の医師だけでなく、世界の色々なところで活躍している医師を応援したい。

電気通信研究所（工学部）鈴木 陽一教授

「3次元音空間の科学と技術ー3次元音空間知覚の多感覚性」とそれに基づく高感性音響技術ー



大学の研究所でこんな研究活動が行われているとは思ってなくて驚いた。また、いつも演奏しているホールには、こんな仕組みがあるのだと知って嬉しくなった。音の伝わり方や聴覚の情報伝達能力など、自分が今まで知らなかったことが多く知れてよかった。萩ホールの音響の工夫の数、質にびっくりすることが多かった。自分も勉強して、音、光りなどを研究してみたいと思った。

農学部 大村 道明 助教 「被災地の地域経済活性化の方策について」



生徒感想

ミニトマトがおいしかった。農学部では主に、地域復興に際してどのように事業を行い、収入を得ていけばいいのかを学びました。また、一番興味深かったのは、ミニトマトを撮影することで甘いかどうかを数値化して割り出すことができるアプリです。これにより、従来ではなかった「甘味を付加価値にすること」ができるというもので、収入を得るための様々な工夫を知りました。

**大学院医工学研究科 田中 真美 教授
「機械・医工学で未来を拓くー触覚・触感のメカニズムの解明とセンサの開発」**



生徒感想

今までほとんど興味をもったことのなかった医工学という分野にとっても興味をもちました。東北大学にしかない施設で学べるのはとても良いと思いました。特に外科手術で、長時間の手術で医師の負担を軽減するための、画面を見ながら手術できる器具に興味をもちました。また、日本人の寿命が伸びている中で、東北大学の研究は大きな役割を果たしていると思いました。

多元物質科学研究所 永次 史 教授「遺伝子に作用する次世代型医薬品の開発」



生徒感想

理系学部の進路についてや、がん細胞と正常な細胞の違いなどがよくわかった。オレンジジュースから DNA を抽出する実験をして、自分の目で DNA を見ることができ、とても楽しかった。専門用語がたくさん出てきて、よくわからない難しいところもあったが、とても勉強になった。

災害科学国際研究所 邑本 俊亮 教授「言葉とコミュニケーションの心理学」



生徒感想

言葉やコミュニケーションについて知ることができた。言葉というのは曖昧で不十分で、相手の知識によって受け取り方が変わることが分かった。だからよりよいコミュニケーションを行うためには、相手のことを考え、異なった受け取り方もあることを理解しなければならないと思いました。

未来科学技術共同研究センター 永谷 圭司准教授「極限環境で活用されるフィールドロボット技術」



生徒感想

ロボットといってもたくさんの種類があることに驚いた。たくさんの種類のロボットが、日々進歩しているのを感じた。また、班のメンバーと協力してオリジナルの移動機構を考える活動がとても面白かった。福島県が抱えている原発問題の解決のために、ロボット開発に期待したいと思った。

2 学年論文研修

2 年生 GL 部員は、昨年度自ら設定したテーマに沿って各自課題研究に取り組んでおり、最終的には研究成果を論文にまとめます。本研修では、東北大学で大学生に対するレポート作成指導もしておられる串本剛准教授から、「論文を書くための5つの要件」と題して午前・午後にわたってご指導いただきました。

生徒達は実際に論文ができあがるまでの過程を知り、自らその一部を体験することで論文とは何かを理解し、論文作成に対する意識を新たにしていました。研究成果をより効果的に発信できる論文作成に向けて、一層努力していけるものと期待されます。



生徒の感想（抜粋）

- ・「論文を書くための5つの要件」について基本から詳しく学ぶことができてよかった。また、実際に展開図や日程表を書くなどして自分のテーマを深めるきっかけともなった。
- ・今日まで不安だったことの大半のことを「！」にすることができた。また、初めて知ることも多く、驚きもあった。そして、自分以外の人の話も同時に聞けた（何が○で何が×または△なのかがわかった）ため、より理解が深まった。
- ・あまり研究が進んでない今の自分にとっては、このタイミングでの研修は無駄になってしまうかもと危惧していたけれど、今後の研究に生かすことをたくさん得られた。
- ・GL部での論文を仕上げるというモチベーションが、今回の講義でさらに向上できた。これから積極的に調査していこうと思う。
- ・論文のテーマの決め方が印象的で、研究を進めてたどりついた問いが論文の問いになることに驚いた。よりよい研究や論文作成につながると思った。